

府中市健康地域づくり審議会
第4回熟年元気づくり分科会 報告書

- 1 日 時：平成25年8月8日（木）15時から16時30分
- 2 場 所：市役所2階第二応接室
- 3 出席者：中野悦成（分科会会長） 原田弘子（分科会副会長）
宮口英昭（分科会委員） 重森由枝（分科会委員）
前原裕吉（分科会委員） 藤本命壮（分科会委員）
佐藤真二（分科会委員）
- 4 欠席者：寺岡 暉（職権委員）
- 5 概要

- (1) 開 会
- (2) 分科会長あいさつ
- (3) 議 事

「熟年世代の生きがいづくり」について

① 関連資料の説明

審議会への報告書のたたき台として作成した資料に沿って、本分科会の議論の方向、考え方を説明し、重点項目を挙げて項目ごとの説明を行った。

「働けるうちはいつまでも」「支えが必要な人から支える人へ」「地域で活躍し続けられる生涯現役社会の実現」「元気高齢者を増やす、取り戻す挑戦」の4項目を重点項目とし、それぞれについて、これまでの分科会の議論をまとめながら、イメージする施策を挙げて説明した。

② 質疑・意見交換

【主な質疑、意見】

- 耕作放棄地については、シルバー人材センターがまた貸しするのではなく、町内会や有志が借りて、自主的にその町内会がそこで物を売るとか、第6次産業をつくっていくとか将来的なことを考えて、10年後には放棄地で食堂とか、食材を提供しますというようなことを考えたら面白いと思う。
- 最初はやっぱり行政が、放棄地を借りないにしても安心料という感じでコーディネートしたほうがいいのか。
- 耕作放棄地を使って、隣近所の人がみんなで出て話し合いをすることで楽しみができれば、自分で食べるだけではなく、作ったら少しその地域で販売するくらいできるのではないかと思う。

- 地域の活動などにどれだけ人を引っ張りこむか。子どもたちをもっと地域の中に取り込んでいくというか、今お年寄りの見守りをやっているが、逆に今度は子どもたちが地域の中に入り込んで活動するという場面を設けないといけないのではないか。
- はしご酒ラリーみたいなものを商工会議所がするが、ある程度の年齢、熟年層の女性もそこに混じれるようになると、面白いのではないか。
- いろんな会社とかお店に行って、お茶の入れ方を教わったり、アイロンのかけ方を教わったり、小さな勉強会みたいに、町の中で勉強する、というのが面白いと思う。
- 熟年の皆さんの第2の人生を楽しんでいただくための婚活とかも良いのではないか。
- 定年された方、定年の直前ぐらいから音楽を始めるとかパソコンを始めるとか、大人の初めて教室みたいなものが面白いのではないか。
- 管理栄養士や病院の栄養士からレシピをもらって、今月は糖尿病の料理を男子教室の中でやるとか、地域でこういうのを販売するとかもできるような気がする。
- 退職してからでは間に合わなくて、子どものうちからいろいろした方がいい。退職しました、それから何をしますかというのでは、全くできない。
- 価値観を、支えが必要な人から支える人へ、というように変えていかなければいけない。現役のときからそういう視点を持たせることが大切。
- 世羅が空き家を利用していきいきサロンのようなことをしている。いきいきサロンは計画して人を集めてするが、これは自由に集まってわいわいしたりする場所になっている。
- いきいきサロンももっと気軽に弾力的に運営できればいいのではないか。
- 移動支援があればもっと人が集まるのではないか。

(4) 閉 会

本分科会から審議会長に対して行う報告書の作成について、分科会長と事務局で作成し、必要に応じて文章の追加等もさせていただき、ご了承いただき、閉会した。